

11
(完)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 3年 5月18日

宮崎県知事 河野 俊嗣 様



提出者

住 所 北九州市八幡西区町上津役東2-2-25
氏 名 株式会社 松尾組
代表取締役 松尾 茂行
電話番号 093-611-0161

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成しましたので、提出します。

事業場の名称	株式会社 松尾組
事業場の所在地	北九州市八幡西区町上津役東2丁目2番25号
計画期間	令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	(建設業) 総合工事業 [06]
②事業の規模	元請完成工事高 6,025,461千円 (令和3年3月期)
③従業員数	64名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	(別紙-1)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(別紙-2)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設系混合廃棄物
	排出量	1,721 t	41 t
	(これまでに実施した取組) 設計及び施工計画の段階において、産業廃棄物の発生抑制を考慮した工法・資材等を採用する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設系混合廃棄物
	排出量	50 t	40 t
	(今後実施する予定の取組) 前年度同様。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・建築系（コンクリート、アスファルト・コンクリート、ガラスくず、木くず、紙くず、廃プラスチック類など） 建築構造物の解体作業などにおいて、産業廃棄物の分別を徹底して、種類毎に中間処理業者に処理を委託し、再資材化・再生利用を推進する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 原則として前年度同様ですが、前年度は店舗の一部解体工事を伴うおおきな増改築工事を受注したため、排出量が1,000 tを超えました。例年は年間排出量が200 t程度（内がれき類は50 t未満）です。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 前年同様。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	(別紙-3)	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	(別紙-3)	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙-1) 産業廃棄物の一連の処理の工程

・舗装 及び 土木工事

旧舗装物撤去：がれき類 → 自社中間処理施設、または再生処理業者に委託して再生砕石類として再資源化、並びに再生砕石類の利用促進。

旧建設物撤去：がれき類 → 同上。

・建築工事

旧建築物解体：がれき類 → 同上。

紙くず → 熱回収処理業者に委託して、焼却処分。

繊維くず → 同上。

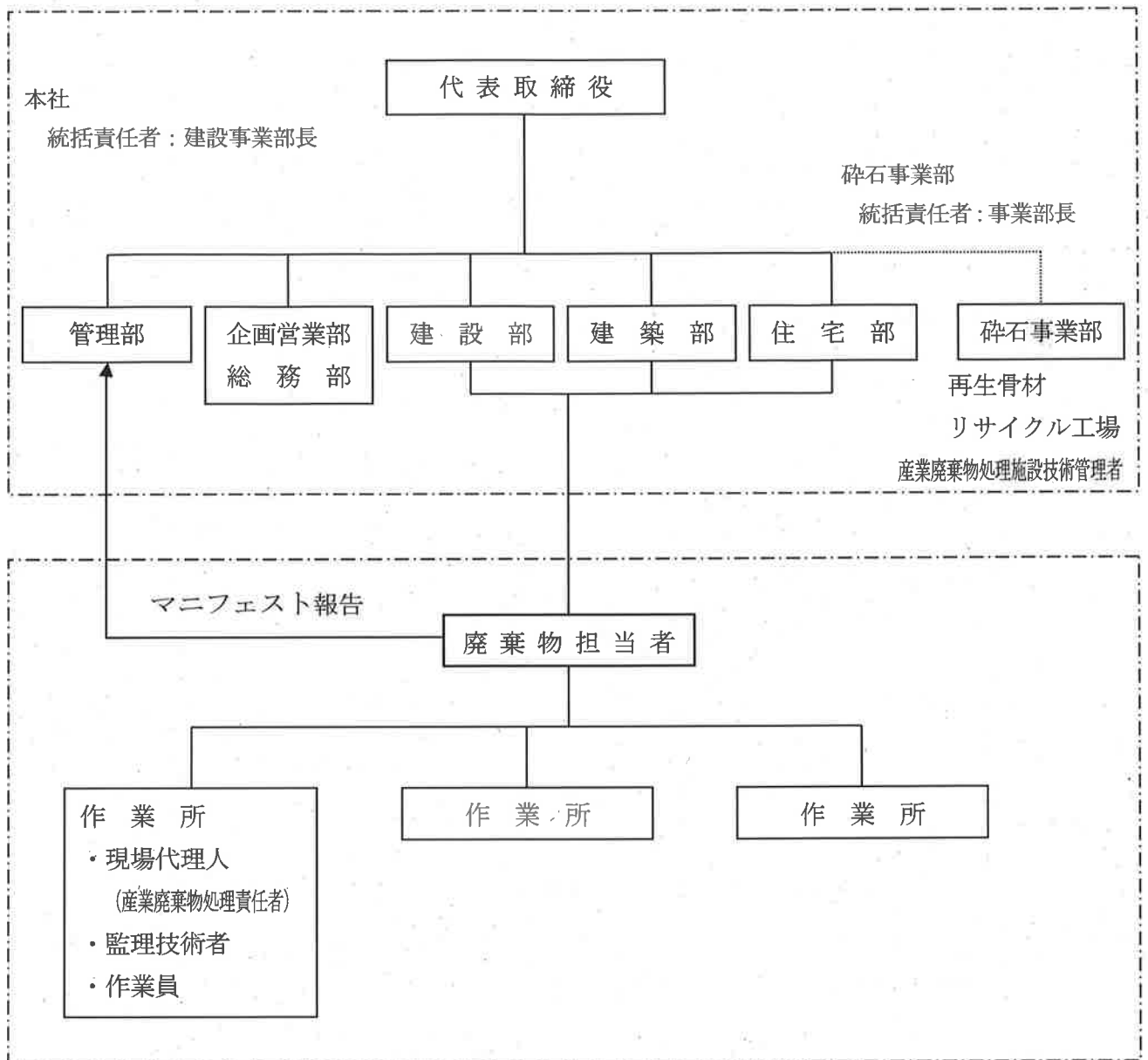
木くず → 再生処理業者に委託して、チップとして再資源化。

混合物 → 中間処理業者に委託し、分別後再生処理業者へ2次委託。でき得る限り最終処分業者への委託、並びに埋立処分を避ける。

ガラスくず → 再生処理業者に委託して、再生砕石類等に再資源化。

廃プラスチック類 → 再生処理業者に委託して燃材として再資源化。

(別紙-2) 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



(別紙-3) 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和 2年度）実績】

産業廃棄物の種類	全処理委託量（t）			
	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
木くず	2.8			
ガラスくず	26.4	42.6		
がれき類		1720.9		
建設系混合廃棄物		40.7		

(これまでに実施した取組)

産業廃棄物を処理業者に委託する場合には、事前に産業廃棄物の処理方法等を確認し、優良認定処理業者・再生利用業者を優先して処理を委託する。

【目標】

産業廃棄物の種類	全処理委託量（t）			
	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
木くず	2.0			
ガラスくず	30.0	10.0		
がれき類		50.0		
建設系混合廃棄物		40.0		

(今後実施する予定の取組)

原則として前年度同様ですが、前年度は店舗の増改修のための地中障害物撤去を伴う工事を受注したため、排出量が1,000 tを超えました。例年は年間排出量が200 t程度（内がれき類は50 t未満）です。